WASON
HQ
1104
J74+

女學雜誌

第二百六十五號
明治二十四年五月十六日發兌

現今女性の悲况（多涙生）

ヘーア、ピン

海外日本婦女の醜聞

初夏の家政

敵兵同に祈禱す（足利代）

下六番町六番地
女學雜誌社

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 265. MAY, 16TH. 1891.

第二百六十五號目次

EDITORIAL:—Japanese Women Abroad in Infamous Occupation.

MISCELLANEOUS:—Be Kind to Dumb Animals. The two Enemies Praying together. A Widow's Vishion. (A Poem.) John wesley's Mother.

NOVEL:—Courtship of Miles Standish (Translation.) "Shikai-no Arashi." (A Story of persecution in Japan in the 16 Cen.)

SEED THOUGHT:—Gladstone's Religion. The Present Pitiful Condition of the Women Students.

HOUSEHOLD:—The Hairpin. Housekeeping in Early Summer.

CHILDREN'S COLUMN:—A Little Girl who Turned into a Sparrow.

CRITICAL NOTES:—Poetry in the "Nihon-Hyōron." Guide to the Singing Book.

NOTES AND NEWS.

QUESTIONS AND ANSWERS.

CONCERNING WOMEN.

NAMES of Graduates from Different Girls' Schools in the Empire (3).

社説　海外出稼の婦女醜聞。

錄雜　生物に信切なれ(みどり)●敵兵同もに祈禱す(しのぶ)●想夫行(其三)●ウエスレーの母君(上)(雲峰子)。

小說　マイルス、スタンヂツシユの戀(愛山逸民)●紫海の嵐(みさを)。

隨感　具氏の宗教

家政　現今女生の悲況(多淚生)

兒籃　初夏の家政●ヘーア、ピン(髮針)の用途さまぐ。

批評　雀に化た小娘の話。

時事　日本評論の韻文(雲峰生)●讃美歌手びき(同)。

問答　凶變暴行●皇后陛下の仁愛●廢娼通動。

通信

女報

週報

日本全國卒業女學生姓名一覧表

物價

(1.) The training School for nurses has been orgnized at "Airin Dispensary" in Obizaka, San Banchō on the 5th inst. by some of the members of the W. C. T. U. of Tokio. The plan is to instruct the nurses while they are amusing their charges.

(2. The two ladies—Wives of both the English and the French Ministers who have been spending some time in Miyano Shita in the early part of last month. hearing of the earnest effort made by the Charity department of the W. C. T. U. of Yokohama to save the poor and helpless invalids, came to Yokohama with the desire to help them in some way, and proposed and held a pleasure party on the evening of the 20th inst. the proceeds of which amounted to 556 yen: So after paying out all the expenses of the evening, the remaining 511 yen was contributed to the above society. The members warmly thanked them, and felt greatly encouraged, and have set themselves more earnestly for the work and are now planning the establishment of a charity Hospital Orphan assylum and the girls Industrial School: The bazar and lecture will be held sometime during the first ten days of the next month.

(3. A strange phenomenon which we witness of late is the daily increase in the number of female laborers. This must originate from the fact that their husband's work alone is insufficient for the support of the family, and hence by a stern necessity they are reduced to these cruel and unnatural straits.

(4.) Some years ago, Mrs. Kiyoshi Kurabayashi, aged 26, of Wadanaka Mura Soshiu, after her husband's death left her country for Tokio, and applied herself to the study of the English language in Sakurai Seminary and after her graduation. was hired by Mrs. Swift the widow of thelate American Minister as an interpreter. She was accustomed to send some part of her salary to her aged mother every month, but unfortunatery. She caught a fever in April of last year and died of it Mrs. Swift with great liberality had the funeral services conducted as for one of her own family, and gave some money to her old mother. But now as Mrs. Swift has survived her husband and is to return to her home she has built a fine tomb for Kiyoshi and promised her mother that she will) hence forth receive 3 yen every month as long as she lives. What a rare example of benevolence is this!

(5.) Mr. and Mrs. Harris who have been teachers of the Meiji girls Seminary have just left Japan for their homeland with the view of resting a conple of years. They are both experts in "Gekkin" and Tei kin, (Chinese Music) and especially Mrs. H. had acquired a diploma awarded for skill in the "Chano Yu" (The art of making tea) so when they return to their home they will be eble to entertain their old friends with these Oriental accomplishments as they relate the stories of ourland. As they were leaving Yokohama, many of their old pupils went out in boats to see them off and with songs and the waving of the flage showed deep their regret at parting.

(6.) One day in Dec. of last year, statistics as to the member of men and women above ninety years of age was made the number estimated to be 565, of which 125 were men and 340 women.
In Wakayama also, these over eighty numbered 3149, nine hundred seventy two of the number being men and 2177, Women.

(6.) The argument in favor of Women employ their spare time in the Tending of Poultry, has again appeared in the "Poultly Magazine," for some Years we alse have farvored this plan.

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌 第二百六十五號 明治二十四年五月十六日發兌

社説

海外日本婦女子の醜聞

日本婦女外國に於けるふしだらの醜聞は、多年瀕々として吾人が耳に聞ゆ。之が爲めに、事實を探索したることも少なしとせざれど、見聞いよ〳〵密なるに隨がつて、いよ〳〵致し方の無きとを覺悟せり。初めは、日本政府の取締方に不足あるなきやと思ひつれど、精わしく實況を承知するにつれて、其苦心の一と通りならぬとを知れり。斯て、其醜聞の漸やく廣がるに隨がひ、吾人が憤慨痛歎もとより言ふ迄もなけれど、只だ虛飾外裝の政畧は到底効なしと覺り、先づ内地に於ける公娼全廢を實行するにあらずば、遂に成果あけんと自信したり。今や桑港ブレチン新聞の一報によりて喫驚し、今日初めて起れるもの丶如く聽取する同胞よ、願わくは之によりて公娼全廢の速かに行ふべきとを決意せよ。

試ろみに、其ふしだらの醜聞一つ二つを擧んか、日本女子密かに太平洋を航し、金門を入りて桑港に達すれば、彼岸のぜげん媒介者は、すでに波止場に歡迎す。則はち之をとある市場に導びき、一人何圓と競賣す。悲しひ哉其躰古しへの奴隷賣買に異ならず。但僅かに異なる所の者は、之を密かにして其の仲間にのみ公告するの一事にあり。左れど鐘を叩きて其仲間を召集するに至りては、純然白晝の廣告に同じ。

大和のおみなへし、降るアメリカに袖をぬらさじと詠じたるは、維新前武魂ある女性の述懷なりき。左れど、今の醜業婦女子は、たゞ黄金の多からんとを願ひ、國躰の何ものたるかを辨ぜず。故に初めて日本をぬけ出したるものも、瀕りに前途の榮華を夢み、敢て其行末を悲しとは思はず。况んや、從來、港々に出稼ぎして、貞操を芥の如くに腐らしたらん程のものは、釜山より香港、上海よりウラヂホストック、シベリアより桑港へと流浪し、海草の彼方此方にたゞよひて、只だ寄邊あるとを幸はいとするに似たり。か丶る類亞の日本婦女、異人の爲に節を破る。安くんぞ初めより節を破ると思はん、たゞ利を貪ぼるとの多からざるを憾みとす。何の行か敢て愼しみ爲さゞるとのあるべき。

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

日本は西洋人に見せんとて、樣々のお化粧を爲す。之が爲めに、巍々たる洋館も出で來、蜂尾翩翻たる舞踏も行はれ、道も廣くなり、髯も生へぬ。云く、來りて見よ、日本内地の開化斯の如しと。左れど、婦女子は會釋なく海外に出稼ぎし、其醜態をさらけ出して、日本の道德斯の如しと吹聽す。たとへば、奧座敷に錦を並べ、店頭に汚穢を散らすに似たり。思へらく、日本の品位年々に高しと、安んぞ知らん、海外しきりに評判すらく、日本は姦淫國なり、日本は賣淫國なり、日本の婦女は何如やうにもすべしと。遺憾骨に徹す。

左らば、海外に在る領事は、何故え之を放任する乎、國を思はざるの最上、奇怪至極なりと思ふ人もあるべし。吾人も亦ある時は若く感じつるものなり。左れど今日の形勢にしては、文明國に留任する我國の領事、殆んど其手の着けやうなきとなるべしと氣の毒に思はる。

既に文明國に來りたるものは、亦た文明國の取扱ひ風あり。洋人の居宅に隱るゝものを、濫りに踏込み拘留することを得ざるを法とす。領事は之を何如んともすること能はず。若し、公けに之を掛合はんには、我國の恥辱を公けにするに同じ、國體上左樣の事を爲すべきにあらず。左らば秘かに先方の巡査に賴み、何如やうかの手段を用ゐて、彼の賣淫者を領事の手中に入れたりとせよ。領事は之を何如にすべき。或時は獄中に投ずべし、或時は之を本國に送還すべし。左れど、數百の人を其都度一々監視送還するとの極めて煩はしきのみならず、入費莫大にして、効驗至つて少なし。彼等は送還せらるゝの途中、或は水夫を欺むき、或は士官を迷はし、滊船の立寄りたる他の港に上陸して、再たび流れ〳〵其地方に醜態を演するを常とす。

左らば、旅行劵の下渡を嚴にし、出航の手續を面倒にし、曖昧の婦女子が洋行を、當方にて一切限制せんかと云ふに、此の事亦た容易すく行はる可らず。憲法に、人の自由往來を制止することを許さず。たとひ前途、あやうく氣なるものと見るも、未だ罪を犯さゞるに當りて之を束縛すること能はず。但し何等かの行政振により、此邊の處置を活かして、首尾よく斯る婦女子の出航を止め得たりとせよ。事情苟くも然らば、彼等は亦たさま〴〵の方法を運らし、何如やうにともして逸航すべし。旅行劵の下渡嚴密ならば、劵を受けずして密航するものもあるべし。取締り嚴重ならば、之を逃るゝの欺きを樣々に工夫すべし。此に至らば、法網の密なるに隨ひ、猾手段いよ

く巧みならんとす。現に、政府の周密なる取締なきにあらねど、今に於て其制裁の中々に行はれがたきを見、以て實際の景況を推知するとを得べし。

左なきだに、事躰殆んど救ひがたし。然るに、僧侶の如き、人を感化善導すべきものにして、尙ほ靑孃を勾引し、無理に賣淫を强ゆるなどの怪事あり。其の他尋常人の行爲に至りては、左こそと思ひやらる。一派の婦女子は、本來此業に慣れたるものなり。更に一派の婦女子は、自から好んで之が爲めに出稼ぎするものあり。然るに、之に加へ他より之を誘引勸介するものあらんとす。弊の增進、幾干ぞ。

然るに、之のみにあらず。米國に在る勞働者は、年々賃金の下落に歎き居れり。斯て思ふやう、此は勞働者の過多あるが故なりと。此を以て、支那人を追出し、其勞働を斥ぞけたり。近ごろ、日本人に對するの運動亦やゝ此の方針に向はんとすらん。之が爲に、醜業を悪むの由を言前とし、延ひて、日本人の勞働者を一切退去せんとを欲す。此の元由により、醜業不評判のうはさ、ます／＼高くなれり。

然らば救治改革の方、全たくなかるべき乎。日本人は、長年遺恨を呑み、永久外人の辱を蒙むるべき乎。何ものか敢て之を忍ぶと云はん。然れども、吾人は、内地の制度もし今の如くんば、到底、改救の見込なしと云はん。日本は長久に賣淫國と見做さるべしと信ず。

本年二月二十八日、政府は「外國に於ける日本婦女保護法案」を議會に提出したり。大意に云ふ、外國に於て本邦の婦女を勸誘し賣淫を爲さしめたるもの、又は賣淫の爲め室房を給與したる類のもの、並びに賣淫の目的を以て海外に渡航するもの、渡航せんとするもの、渡航せしめんとするもの等は、罰金若干、重禁錮幾月、監視何十日の刑に處すべしとあり。

吾人は此法律の、何如ほど迄に効驗あるべきかを疑がひ、頗ぶる危ぶむものなり。左れど、第一に問ふとを要するものは、本邦にて淫を賣るは罪にあらず、海外に在つて同樣の業を營むは罪なり、本邦にて堂々妓樓を公置するは恥辱にあらず、彼地に在つては密房に密賣するも大恥辱なり、とするの論理は何ぞ。吾人は、其解を得ざるに苦しむ。

内地は内證の事あり、海外の出來事は、國際上に關すと謂ふものあらんか。是れ、今の文明世界を知らざるものなり。日本には、各國の公使留任し、亦外人の往來繁るが如し、特に洋字新聞の探報員は、耳を長くして來り、内地の實況を面白げ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

に通信す。此の故に、藝妓の事、女郎の事、ロンドン、ニウヨークなどの新聞紙上に躍如として活動し、一朝一夕、乍まちにして數百万の文明人が眼に觸る。

然るに、海外の港々に密淫賣する、日本婦女子が出來事は、反つて公けとあらず、新聞紙も決して之を公載するとを樂しみとせざるなり。たとへば、此度び、桑港ブレチン新聞に掲げたる一報の如きも、日本の女子が無理に或ものゝ爲に勾引されたりとの主旨にて論述したり、未だ初めより密賣するもの多しとの故を以て公載せざるなり。若し斯の如くせば、賣るものは日本女子にして、買ふものは、其土地の米人なりと風聽せざるを得ず。如此きとは、巧智ある外國新聞紙の爲さざる所なり。

左れば、姦淫の不評判しきりに流傳するは、出稼の女子あるが爲に由ると左程多からず、本邦內地の公制娼度に因れると意外に多し。故にたゞ醜を海外に覆わんとの主旨を以て斯の如くすと云はゞ、其効ほとんど無けん。

但し、出來べき限り渡航手續を嚴密にし、又た彼地に於て領事に捕縛の全權を附與し、公法上、賣淫を罪なりと斷定するなどの處置は、至つて宜しきを得たるものとす。吾人は議會が、本年の議事に於て、第一に此を可決せんとを祈る。但だ吾人が切に論辨せんと欲する所ろのものは、賣淫は彼地に於ては、罪たり、此地に於ては構ひなしと言ふの理なき事、及び內地に於て公娼を全廢し、風儀を取締るにあらずば、只躰面を飾る爲に何如なる法律を設くとするも、斷じて十分の成功あるまじと信ずる事是れ也。

久しく海外に領事たりし某、談此事に及べば慷然として長歎し、未だ曾て吾人と其憂を倍せずと云ふとなし。彼れ、久しく數多の取締を試行したり、左れど遂に其功あきとを發見し、詮ずる所ろ、內地の風儀を善導するの他に良策なきとを覺悟したりと云へり。些さか絕望の愁辭に近しと云へども、眞理を含めると多し。

出稼の徒は無智の婦女子なり、之に關係するものは、貪利の族なり。彼等に向つて、國躰を重んぜよと云ひ、國辱を恥とせよと云ふとも、洒々蛙面の水の如し。

特に其の恥とせざるも、理なきにあらず。內地の妓樓は結搆宮殿に均しく、之に稼ぐものは、錦衣を着し、銀燭煌々の間だに、悠々樂す。田舍の乙女は出世の爲に、一と度び身を賣んすとするものもあるなり。貴顯紳士、馬車を驅つて、玆に

遊び、一夜千金を散らして、豪遊す。新聞紙しきりに喧傳して、其風流を稱す。今の俗人何によりて婬業の悪しきとを知らん。斯て海外に出稼ぎするに及べば、其同樣の事も罪となる、內地に在つて貴顯紳士が爲すとを誇る所ろの遊びは、西洋に在ては國辱となると。夫れ、如此き迂回面倒なる論理を承知するには、一種の頭腦を要す。かの、無智貪利の輩の得て知る所ろにあらざる也。

子は父の爲に隱す。之を秘するは一種の道德なり。海外に恥を覆はんとするは、殊勝なるに似たれど、斯迄國を思はんほどのものは、何故に內地に於ける極醜の營業を公けより隱さんとはせざる。啻に隱さゝるのみにあらず、娼妓の寄附物を神堂宮殿の前に吊し、之を國家大禮の節に誘ない出し、亦た其風評を新聞紙面に書立て、外國の貴賓に之を供する如き、珍らしきとにあらず。現に此度露國皇太子の來遊に會し、大坂市民は藝妓を出さんとし、京都市民はカモメをどりを演せんとせり、之と同時に或る大臣が西京に於ける（所謂る）豪遊の記事、新聞紙面に風流の花を咲かせたり。あゝ、內地の實況斯の如し、其風評乍ちにして万國の公聞に達す。而して、たゞ外國出稼の婦女子にのみ、悶々として憂慮す。吾人は其の何の處置たるかを知らず。

故に先づ內地に於ける、公娼を全廢すべし。之よりして、風儀嚴々、公德粛然たらん。此に於てか、民に敎へて、海外出稼の國辱たるとを知らしむべし。此に於てか、之を取締まるの手段大ひに功を奏すべし。

且やもし此に至らば、たとへ海外に多少の出稼女ありと云ふとも、敢て莫大の國辱にはあらず。見よ、英國のマドロス橫濱に不埒の事を爲し、佛米の不德男子屢ば婬猥の處行あり。然れども之が爲に、國際上英佛米の地位を大ひに引下ぐるとのあらざるを見よ。非常の文明に達せずば、多少の失策はあるべし。國の法網を漏れて海外に逸し、日本政治の外に居て悪行を爲すもの少々ありと云ふとも、もし內地の美風天下に聞えば、神洲の品格决して今の如くには落ちじ。

吾人はお化粧を悪む、且つ其効なきを憫む。海外出稼女の醜聞に胸を打たず、寧ろ內地目前の悪風醜聞に、嘔吐して止まざるもの也。同胞、須らく、誠實なるべし、たゞに一時の虛飾を爲すとも、何の効かあらん。日本は長久の大改革策を要す。

雜録

生物に信切なれ

みどり

フォンテネル、一日、哲學者マレブランクを訪ふ。談話餠なわの頃ろ、畜ひ犬尾を振り、首べを垂れ、主人の足許に近づく。屢ば退へども尙追り、主人が癇癖を損のふ。マレブランク、怒り足を揚げ一蹴す。犬悲し氣に鳴く。客いたましとて叫ぶ。

マレブランク、冷然として曰く、フォンテネルよ、此等の獸は死物の如し、本來感じなきことを知り玉はぬ乎と。

左れど吾等は生き物を感じなしと認たむると能わず、若し心を切にして其爲す所を見れば、何れか物の哀れを動かさゞるべき。やもりの雄、釘にてうち拔かれ床の下に五六年躰を繼はれたるとき、其雌食ひ物を運びて之を養ひたる例しもあり。獵師兒猿を打ちとめたれば、母猿其傍を去らず、死體にひしと抱きつきて亦た自から打とられたる物語りもあり。犬飼の萬が犬、主の墓に番して去らず、遂に餓て死せるてふこと、古くより言ひ傳へたり。かゝる美談一日を以て盡す可らず。

ポルーテーアの曰く、人よ、汝ち何の權ありて獸類を逆待するやと。盖し、萬物は人の爲めに存すなど言ひ、猥りに生物を殺して些との情けもなきは、優者、劣者をわがまゝに取扱かひ、之を以て天理とするに同じ。冷淡も亦た極まるものならずや。たとひ、ピサゴラス、又はブラーミンの徒の如く、人畜輪廻の說を信ずるにあらずとするも、人は出來べき限り萬物を重んぜざる可らず。而して感じある生物に對しては特に然あらざる可らず。

動物に信切あれよと言ふは、人に對して信切の德を要むるに均し。ジャネー曰く、動物を逆待するものは、自から亦た人を逆待するに至らんと。是れ人情墜落自然の道ゆき也。

われ久しく人の生き物に不信切なるとを痛み、女學雜誌の紙上折々同意見の說あるを見て、我國唯一の友人存すと思ひける。然るに、此頃は、橫濱のメール新聞に於ても亦た同じき說の出るを見たり。喜こばしきとなり。本邦佛敎の人も仁心を振り起し、先づ、佛徒にして馬車會社の長となり、而も現時の如く之を逆待するなどの悪行より、矯正を初め玉へ。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

敵兵同もに祈禱す　しのぶ

永祿八年、細川晴元の臣三好長範並びに松永久秀等、將軍足利義輝を弑し、義冬の子義榮を立つ。織田信長不忠を討つと稱して重臣三好某を遣はし、兵を京師に向ふ。

三好某は熱信の基督敎徒なりき。軍旗には燦然たる十字形を畫き、兜には耶蘇の聖名を刻み、一見基督軍隊たるを示しぬ。然るに、京軍の方にも信徒少なからず、志を奉公に厚ふして、決心勇氣凜々たり。

時に宣敎師フローイ師、京にあり、兩軍中の信徒に報じて云はく、大阪堺の信徒等ノエル祭を執り行なはんとて本寺に到着す、君等休戰の間だあれば、幸ひに亦た此に會し玉ふまじき乎と。兩軍の信徒此報に接し、直ちに陣を出て、寺に入り、懺悔齋潔の法禮を勤めて夜を過しぬ。騎兵あり、歩兵あり、敵あり、味方あり、軍服を着し、軍器を着し、威風堂々、殺氣肅々而も其間だに幼なき誠と、一視同仁の愛とを現はし、彼此差別なくテーブルに列し、敵人互ひに敬禮を盡して同宗の說敎を聞き、更に辨別なし。

翌る朝た再たび會し、敵味方、道に於けるの同心を證せんとて、更に敎師が家に集まり、數種の菓實を喫し、歌を歌ふ。斯て、順次、師に暇を告げ、互ひに禮を失はず、相別れて各々其陣に歸りけり。

兩軍正に對す。各自が主に仕へて其一身を擲つは、基督信徒の義務なりとて、勇進猛戰、尤とも多く敵を殺して身亦た之に死したるは、兩軍の信徒なりける。

想夫行　雲峯

其三

あまがやの軒の板間をもる月に
琴かきからしゐる人やたれ

岸によるなみ音絶えて、稲葉のつゆになくむしの
聲すみまさる小夜中に、空のむらくも消えはてゝ
月ぞさやかに匂ひける、ありしむかしに九重の、
玉のうてなに住みにしも、今はゆめじに見ゆるのみ
あまがいほりにありし世を、しのぶとすれば越路なる
つまのたよりや待たるらむ、語らん人もあらなくに
つらき思ひはせきあへぬ　涙となりて流るらむ、

袖のしづくに宿りける、　月はこし路もてらすらん
我身一ツはいかなれば、　かく近江路に迷ふぞと
打あげくこそことわりなりけれ。
雲井はるかにかへりける、　夫のすがたを夢路にて
見しと思へばなつかしき、　こゝろもいとゞますかゞみ
そのすがたをば現つにて、　うつし見ましと思ふらん
小夜ふけぬれど海人はなほ、　ねられぬまゝに起あがり
窓おしひらき打ながめ、　三五夜中の月かげに
むかしの人のこゝろまで、　見えこそわたれと異國の
人は云ひけり、我はまた、　今宵のつきにはるかにも
こし路のそらを打ながめ、　慕ふこゝろの絶えせじと
思ひやすらん、立あがり、　名もなつかしきつまごとを
窓の戸近く取いだし、　月のひかりにこし方を
こゝろ細くもくりかへす、　糸のしらべに合はせつゝ
聲さやかにもうたひけらく、
　みやこもひなも今ははや、　夷のいくさやみちぬらん
　義しき兵士わづかにも、　なりにけるとぞ我夫は
　今やこし路の北狄に、　とりかこまれつ憂き惱み

しげくあるらん「末つひに、　敵をつくさで歸らじ」と
別るゝ時に云ひ給へり、　弓矢とる身のこゝろこそ
かくある可けれさりながら、　現つのときもゆめ路にも
忍ぶすがたぞなつかしき、　敵のいくさを平らげて
かへりませ君これをのみ、　神にかけてもいのるなり
あまが伏屋にまちくらす、　心の程をかへりゆく
かりにつてゝも告げなまし、　過にしむかし九重の
大宮人にかしづきて、　月てる夜半につま琴を
奏でし時ぞしのばるゝ、　君ます空を思ひみて
こよひの月に一節の、　琴のしらべを奏でけり
つらき思ひに堪えかねて、　つらき思ひに堪え兼て。
堅田の浦に舟うけて、　誰を訪ふらん、武士は
磯をたどりつ月かげに、　さまよふ樣にぞ見えにける
かすかに見ゆる濱松の、　木かげの庵に琴の音の
聞えけることあやしけれど、　思ひやすらむものゝふは
妙へなる音をたよりにて、　立よりきけばかねて知る
しらべなりけれそがうたに、　夫こふこゝろあらはれぬ
過にし年に中將が、　のこせし人やこれならんと

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

窓のすきよりうかゞひつ、涙ぬぐひて起あがる
時を待ち得てものゝふは、柴の戸たゝき訪なひぬ、
あまはしづ〳〵立あがり、みやびやかなる言葉もて
「訪なふ人は誰ならん、こゝはいぶせき伏屋にて
とひ來ん人もなしと思ふ、迷ひやする」といらへけり
聲をきくよりものゝふは、いかで迷はんこゝあけて
入しめ玉へ」と云ひければ、あまはさし戸をあけにけり
ものゝふやがて云ひけらく、「今は海人ともなかかはり
あらん御身は左中將、義貞公の北の方
局の君にて在はさずや、しらべ給ひし琴の音と
うたひたまひし御うたの、こゝろによりて知られけり
式部の大輔義政と、よばるゝ某、こし路まで
公の命令に從ひて、御身を伴なひこさんとて
はる〴〵訪ひ來て今宵しも、月にかなでし琴うたに
きみの庵を知りてけり、年久しくも御目見えを
得ることもなく過にけり、今宵は如何なる時なれば
旻天ふかくあはれみて、主從かくも遇ふらん」と
なみだながらによろこびにけり。

またものゝふの云ひけるは、「窓より見れば月かげも
比枝の高ねもかくれけり、夜もはやいたくふけぬらじ
鷄の八聲も遠近にきこえにめけり、橫雲に
羽打ちかはしとぶ鳥の、聲よりあけて近江路や
鏡の山もあらはれぬ、舟路は波やあるゝらん
うきねのゆめやさはぐらん、さては陸地ぞやすからむ
いざもろともに立ちいでゝ、たび路の空をいそがなん
あだのいくさにかこまれて、惱み給ふらん中將は
待さびてこそ在はすらめ」と、云ふを局は打きゝて
「過にし夜半に見しゆめは、いとゞうれしき音づれと
なりにけるか」とよろこびぬ、待ちわびし身は如何ばかり
うれしかるらんされば いま、こゝろも空にいさみけり
訪はんと思ふ其人に、遇はんよすがもなきものを
しら波よする堅田をば、あとに見なしてはる〴〵と
たづね行くこそはかなかりける。

●正誤　前號第九面上段十一行思ふらん。は思ふらむ。の誤り、
下段十行いかに。はいかで。の誤なり、

ウエスレーの母君（上）

雲峰

聖愛

人の世にありて相交はり、相愛するの關係甚だ少なからず、親子、兄弟、姉妹、夫婦、朋友、親戚、凡て是愛によつて連絡す、等しく皆聖き心以て相愛し得るの關係あるべし。されど人心の清からざる、遂に聖愛を汚して利己の爲めに人を愛するに至れり、此處を以て實利論起り、自己中心説出づ。斯くあり來れる世なれども母の其子に於ける愛のみは全く神聖なる事、萬人の許す所なり。實利若くは利己の論者自らも云、母の愛なるものは最も利己心の薄きものなりと。況んや聖敎を奉じ、神愛を悟り、利己實利の外に愛あるを知るものに於てをや。焉んぞ疑はん、聖潔なる愛が母なる人の胸中より溢れ出るを。然り母の愛夫れ斯の如し、宜あり其子女に大ひなる感化力を有する事。こゝを以て古來非凡絶大の人物たりしもの、母にして、凡庸の人ある事なし。蓋し葡萄遂にあざみを生ぜず、薔薇よく無花菓を出さず。偉人ならずして如何で偉人を産するの感化力あらんや。

愛の力

子の爲めに生れ、子の爲めに活き、子の爲めに死す、これ母たるもの、天性たる事、世界萬國到る所として然り。されば母の愛を精細に記せば、これ即ち人類の活歴史となるべし。嘗て上帝下界に默示して敎へ給ひけるが、其人類に於ける愛、母の子に於けるより厚しといはざりき。母の愛を知れる子女は幸福なるかな。其人は世に於て最も貴き感化力を受けたるなり。之に反し、不幸にして幼時母を失ひ、孤行世路に迷ひ、若くは殘忍酷暴の母をもち、性曲り、心邪となり、或は薄志弱行の母に養はれ、横姿貪慾に流れし者は、實に禍ひなるかな。人性善悪の岐るゝ所、只夫れ母人の如何によるのみ。幼時に於ける愛の化力、誠に限りあらじと云ふ可し。

偉人の母

聖賢なる母は貴む可し。叱咤一聲全歐を震動せしめたる、世界開闢以降第一流の豪傑たる、奈翁の母は如何なる人なりしぞ、嘗て奈翁敵を倒し、威光赫々天日を蔽ひ、金冠光りは華々しき時に當り、其母の傍に至り、半は戯れに、半は眞面目に手を伸て曰く「我今帝位に昇りぬ、乞ふ我手に接吻せよ」と、母君大ひに怒り「汝が我手に接吻するこそ汝の勤めなれ、汝を

して世にあらしむる者は我なり」と云へり。浮雲一度消し去り、孤城日は沈み、奈翁の豪雄なる、亦爲す事能はず、纍々乎として孤島に送られ、配所の月に世變を歎ぜし時、其母君は行を其子と共にし、曰く「我最愛の一兒、遂にこれ最不幸者となりにけるか」と、剛なるべきに剛なり、柔和なるべきに柔和なる、夫れ斯の如し。此母にしく只よく此子あるを得たりし事蓋し明かなり。其他英雄豪傑、大君子の母あるもの概ね亦斯くの如し。

今を距る事二百七十年の昔、英國の或僻地に一人の賢母ありき。基督教徒の内これに勝りたる母の資格を有するものあらざる可し。その賢母を誰とかなす。曰くスサナ、ウエスレー、則ち、

ジヨン、ウエスレーの母

たる人なり。彼女十九歳にして田舍牧師に嫁せり、十九人の子を擧げし内、世界人類の爲めに大事業を爲せるを、チ・ヤールス、ウエスレー。ジヨン、ウエスレーの二人となす。聖徒道の爲めに事業を爲せしもの多し、されど失望迷暗に陷りしものを導き、罪惡に沈める男女を救ひし事の多き、恐くはスサナの一子ジヨン、ウエスレーの如きものあらじ。既に此子あり、其母たるの人思ひ知るべし、

家庭の狀態

自由あり、幸福あり、健康なる遊戲あり、親子相和し、相喜ぶさま恰も祭日の如し、されど亂暴不整頓に流れず、長幼の序、授受の事恰も學校の如し、幼兒長者の叱咤に泣く聲なく和樂の微笑は常に絕ゆるなし。小兒等は打群れて風琴を擁し、小供らしき聲もて讃美を歌ふ。午後五時となれば母は子一人宛を傍らによび、詩篇と新約書の內を共に讀む、初日は長子を、次の日は、次子と兼て定むる所あり。斯て、八時に至れば子等皆床に入る。每日一人の子を特別に傍らによび、或は敎へ、或は其云ふ所を聞き、亦其相談相手となる。是即ちウエスレーの母が整理せし、家庭敎育の秘訣なりき。

スサナ、ウエスレー女史が貢人への書簡

前に記する如く一日一人宛敎導するの策は女史がデンマークの某傳敎師の傳を讀みて心づきしものといふ。此時女史其貢人に書簡をよせて云へり、

既に厚き信仰あり、熱心に神を讃美する人と共に歌ひ且つ

祈りて貴重なる時間を毎日費すは妾の忍びざる所に侍る、妾近頃思ひあたりし事有之「妾は男子にもあらず、傳道者ならざるも熱心なる信仰だにあらば今日より一層著大なる働きを爲し得べしと」云ふ一事にはべる、妾以爲らく妾が平常相接し相語る人に對し、一層深き愛をあらはし得べしと、妾は之を我子等より始めんと決心致しぬ、之に就て毎夜一人の子と語る事と定めけり、即ち月曜日にはモリイと、火曜日にはヘッチーと、水曜日にはナンシーと、木曜にジヨンと、金曜日にパッチーと、土曜日にチャールスと、日曜日にはハミリイ及びサッキイ兩人と語るべく候。

女史の勤勉

ジヨン、ウエスレーの生涯は祈禱と勞力とのみなりき、而して其原因を問へば明らかに其母なる事を知るべし、女史は常に上帝の力に頼りて働き、嘗て寸暇もなく、細事と雖も整頓せざるはなかりき、勤めを爲して妄想を絶ち、思慮をめぐらして人に助けを與へたり、故にウエスレーが創めし一宗派は女子の生みしものといふも不可なるなけん。

小説

マイルススタンヂッシユの戀

第四回　ジヨン、アルデン（上）

愛山逸民

惑亂昏迷せるジヨン、アルデンは狂人の如く戸外に馳去りて獨り海岸に彷徨せり。彼は沙上を上下に歩みながら東風に其頭をさらして其熱き額を冷さんとせり、されども其心中は猶火と熱となりけり。而して天邊徐々に默示錄的の華麗を以て天城の沈むを見るかの使徒ヨハネが見し異象の中に示されたる如き湖黄玉、金剛石、靑玉の雲城を帶びて大なる赤き大陽の沈むと共に其高き城樓の上に天城を測る天使の金葦のかゞやくを見る　（愛山生日約翰默示錄廿一章を參看せよ）。

彼は驚喜して叫べり。ヲー東風よ霧深き大西洋の風穴より陸なれば曠野の如き歡迎の原を超えて、荒地の如き岩礁を超て、花園の如き海涯を超て、吹き來れる東風よ、余がもへつゝある額の上に爾のつめたき濕りたる手を置き余の中心に在る熱病を和げんために爾の霧の上衣もて密に我を纒へよやと

眼を覺したる良心の如く海は歎きつゝ動搖しつゝ海岸の浮泛なる砂礫をいたましく氣に高音に打つゝあり彼の心を貫かるゝ如く情の爭ひはいと烈しく戀は凱陣して王冠を得たり、而して友誼は負傷して血を出せり、慾望の切なる叫聲義務の懇ろなる訴よ！彼は言へり處女が我々の間を攪みし二とは余の過なるかと尉官の失敗せしことは余の過なるかと余が勝利を得しことは余の過なからんと既にして彼の心中に預言者の聲の如く是れ主を怒らせたりといへる叫が轟きぬ、彼はダビデの過バテシバの美しき顏はげしき戰爭の先鋒たりしダビデの朋友に就て考へけり（撒母耳後書十二章參看）罪の慚悔と煩悶、及び貶斥と自誅は直に彼を苦悩せしめたり、而て彼は最も深き後悔の中に叫べり是主を怒せたり、是れサタンの誘惑なりと。

彼は頭を擧げて海上を眺めしに其所に「五月花」の陰き形が曚朧として進潮に漂ひながら明朝出帆の用意して碇泊しつゝあるを見たり、霧を隔てゝ人々の聲をば聽けり。船具の甲板上になげらるゝ響き、船員の叫聲及び水夫等の唯々君よが高からねども明了に黄昏の露けき空の中に聽う、彼は暫らく立ちて船に向ひ傾聽しつゝ凝視しつゝありしが忽地に歩み出しぬ其狀猶天怪を見て暫らく立止り後其歩を早めてさし招く影の迹を追ふ人の如し、彼はツブヤキぬ然り今余は明に知れり主の御手は海を通して暗黑の地過失の羈絆より余を導き水の壁もて余を圍み余を追ふところの殘忍なる思念より余を隱し、余を離し玉ふべし、余は海を越て還るべし此恐しき土地と、余が戀することのかなわぬ彼女と余が心に後めたき彼とを棄去るべし。親族の遺骨に並び我母に密邇して英倫土の緣なる寺地にて墓中に在んとこそ善けれ。羞恥と不名譽との中に生活せんよりは死して世に忘れらるゝことこそよけれ。靜默と暗黑の室中にて朽たる余が手中に在て輝く寶石の如くに狹室の暗黑中に、神聖に、安全に、人に見られで余と共に余の秘密に殘るべし。然り未來の大なる許婚の指環としてと。

紫海の嵐

みさを

第四回

天動き、地裂くるも眞理は變らじ、蓋し始めもなく終りもなく、萬有を治め、萬古一貫するものに非ずんば誠の眞理に非

れはなり、眞理既に斯の如し、之に依て立つもの堅くして動かざるはさるべき事のみ、一信磐石より強く、氣節松柏をも凌ぐの人は只此眞理を知れるにあるのみ、正しきものは邪なる輩に責められ、暗きは光りを悪むことわりにて、眞理の爲めに苦難に遇ふもの古來幾許なりしを知らず、されど正しき事の爲めに責めらるゝ者は幸ひある哉。

大友義親の養嗣子親虎は親しき友ある親家に遇ひ、うれしさ云はん方なく、過こしことゞも思ひ出で、涙を拂ひつ、語り出づ。

余が父に養はれて此地に來りける頃、父上に伴はれ、フロエー敎師の家を訪ひ聖敎の事を聞きしより、余が間もなくこれを信ずるに至りしは公(親家)の知り給ふ所ならん、余は其頃よき父を得て、幸ある身となりしを喜びけり、さるに如何なる故ありけん、去年の春より聖敎を信ずる事を止むべき旨仰せられき、余は止め難しと云ひければ、暫らくは父上より何も云ひ給はで過ぎにけり。

神恩の洪大なるをよろこびて過にし日數も二月あまり、去年の初夏なりけり、余が身の苦艱は實に云ふに忍びざる事起りき、一日天氣晴れ渡り、新綠涼風を生じ、心自から淸朗たる時、余は夕刻よりフロエー師の許を訪ひ、我身に益ある敎へを承はりつ、いとうれしく家に歸りき。父上は大村城に登り給ひしとて未だ歸り給はざりき、夜更くるまで余は月をながめ、折々なき過る杜鵑をきゝ無限の感想に種々の事を思ひ居り。敎師の云ひける事ども思ひ、正しき道の爲めに世を送らばやと心に定めしは此時なりけり。されど我心の弱き、我罪の深き、幾度か迷ひの淵に沈まんとはせり、されど悩める者を助け苦しむ聲を聞き給ふ神は讃美すべき哉。

其夜、夜中と思ふ頃父上は歸り給ひて、何時もに似げなく、御心地あしげなりければ余は如何なる故ならんと心竊かに怪みしが問ふこともなくて其夜は明かしけり。翌朝父上余を呼び給へり、余は父上の前に行きて坐せり、父上余にむかひ給ひ徐ろに汝是迄聖敎を奉じ、敎師に遇ひ、敎徒に會する事をも許しき、されど今より後堅く之を禁ず可ければしか心得よと仰せられたり。余は直ちに答へて云へり、久しく受けし御養育の恩海山にもかへがたし、此は只管謝する處なり、此上に願ふ所は余をして聖敎を信じ、誠の幸福を受しめ給はん事な

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

り、心より乞ひ參らするは是のみなりと、余は斯く言ひけるも父上は今日迄許し給はずと云ひて親虎は嘆息して暫しものも云はず。

抑も親虎の養はれける頃より其聰明非凡の性あるをもて國主大友義鎮は其親屬にかゝる者あるを喜び、其女をもて之に嫁がしめんと約せり、然るに義鎮の夫人は深く佛教を信奉し、常に僧侶を助け、聖教を見る事蛇蝎の如くなりければ其親戚に聖教徒出でん事を大ひに嫌ひけり、されば其女婿たらしめんとする親虎が聖教を奉ずると聞き、之を止めしめんと欲し、遂に義親を召し、若親虎をして聖教を棄てしめずんば其女を娶らしめざる旨を悟しけり、此故に義親は其子に告ぐるに上の如くせり。

親虎語をつぎて曰く余が信仰動かす可からざるを知り、父上は云ひ給ひけり、汝若し其心を變へずんば國主は我を責め、我所領の地及び多くの財產を沒收し、且つ余を追放せん、さすれば汝亦此處に領主たるを得ず、今日汝が信仰を棄れは汝は久しからずして日本國中第一流の大諸侯となり得べし、頑冥固陋にして此大利を失ひ、我に禍害を及ぼさん事汝の甘んじて爲す所か、父をも父と思はで斯くは殘忍の心を起すか、獅子心中の虫とはそれ汝が如きものを云ふか、我云ふ所を聞かずんば親ならず、子と云はじ、立ち歸りて一布衣たれ、親を思ぬ者は人とは見ずと、烈しき言葉一々余が胸を刺しき、利害の事もて責めらるゝは偷忍ふべし、父子の恩情もて言はるゝ事誠に堪へがたし、針の山、刄の峯によぢ、魔王の爲めに苦しめられんも斯くはあらじと思ひけり、されど信仰遂に棄つべけんや、父上の御厚意もだしがたし、されど神命亦輕からず、孝ならんと欲すれば神罰を如何せん、義しからんと欲すれば孝ならず、親虎進んで神に從がふべきか、退きて父の命を守らんか、頗る惑ひなき能はず、されど宇宙の富を合はすとも遂に一命の貴きに如かずとや、前思後慮すれば遂に上帝を信ずる事止むべきにあらず、此身の生死、進步父上の仰せに從はん、不孝の子とな見給ひそ、上帝に忠ならんとて斯くは成りぬと思ひ給へと淚ながらに語りけり。

信じて疑はずんば山だに移る可し、志强くんば木石も偷感ず可し、况んや愛あり情あるの人に於てをや、親虎の答へを聞きては親方もさすがに其至誠に感激し、斯くまで信ずる事を

止めしめんとすれば亦殘酷の至りなりと云ひて、思はず涙を流しけるとなん、されば親虎の言に理ある事明らかに悟り得たる可し、如何にせん伺財寶に事ふるの念止まず、只管國主夫人の歡心を得とするに汲々たるを、加ふるに義親の夫人も亦佛法を信じ、親虎が聖敎を奉ずるを好まず、されば義親前後より子の爲めに攻められ、心中憫察の思ひ堪えがたきに、伺陽に親虎に迫つて敎を離れしめんとす、利害得失を說きて心を改むべき旨頻りにすゝむれども親虎泰然として動くべく見えざれば此上は詮方なしとや思ひけん義親は陰謀奇計に依て其子に威を示し、或は威赫して以つて苦しめんとす、眞理を信ずるもの豈一庸夫の姦策に依て動かんや、死をだも尚且つ辭せざるものを。

親虎亦云ふ、余が父上の命に從はでありければ父上は大ひに余に迫害を加へんと謀り給へり、之より先の事殆んど語るに忍びざるものありと、一坐靜肅亦暫く聲絕ゆ、悲風時に戶を打つのみ。

隨感

現今女生の悲況

多涙生

それ少女ほど世に愛らしきものはあらじ、其の無邪氣なる、其天眞なる、其優さしくして美はしき、其の嬉れしげにして莞爾なる、其哀れげにして涙もろき、直に迫りて神に入る、其咲や花ために妬み、其媚るや月ために羞づ、實に人生の寶なるかな。

それ然り然りと雖ども此の少女此天女此花や此の月や、畢竟それ何處に歸趣す、思ふてこゝに至れば滿身不覺生粟す、何となれば或は敎育の如何により、或は周圍の如何により、或は友侶の如何により、或は讀む書の如何により、百替千移、而して畢生其眞を保ち得るもの、畢生其美を存し得るもの、畢生花たり月たるを得るもの、竟にそれ幾許ぞや。

敎ゆるもの愛深からず、酷にして無情、而して少女竟に寒冷的の婦人に化す、周圍なる外貌に狂し、美裳を競はゝ粉飾を爭ふ、而して少女乃はち虛榮的の朽女となる、友人鄙辭を吐へ、而して彼れ直に倣ふ、友人惡癖あり、而して彼れ直に之を

眞似ぬ、若し夫れ、當時流行の惡小說を讀み、而して心腐り魂亡びて滔々不淨の臭女たるもの果してそれ幾許ぞや、明月みるく雲に沒し、美花眺むるが中に泥土に散ず、誠に悲痛の限りにこそ。

そが上、女界を觀じ來れば尙々哀れなるとの多きぞかし、オオ此の愛孃此神女、幸に周圍に惡化せられず、幸に惡書に誘惑せられず、幸に又曲らず汚がされずして、其れよく學業を卒ふるとも、竟に悔ひなきもの幾人かある、終に泣かざるもの幾人かある、嘗て學窓の下に坐し、熟々前途を想像し、胸に百望を跳らせつゝ、兎せん角せん、彼れや此やと、百度千回繰り返し、又繰り返して定めたる理想は今それ如何にぞや、嘗て謂ふ、余れ卒業の曉には、天晴教育に從事して、理想の校舍を起こさばや、理想の婦人を造らばやと、然れども已に其期に到りてみれば、社會の實情は理想と背馳し、婦人の事業は想ひしよりも難く、山川路を隔て、荊蕀足に纏ひ、進行の望み絕へ果てゝ、空しく踵を回らすもの、空しく學窓を怨むもの、果してこれなからずやは、嘗て惟ふ、業はウイラルドの跡を蹤ひ、筆はイリオトの才に擬し、議論はコツプの氣象を學び、觀悟はフライの心を慕ひ、意を豪にし、誠を實にし、而て女界の光たらばやと、然れども實力は往々自負心に劣り、想像は屢々實地に合はず、內には放光の油乏しく、外には衆望の歸依を得ず、轉又轉、落又落、英氣頓に挫け來りて、而して畢竟凡々たるもの果してこれ無からずやは、於此乎後進者は乃ら前者に鑑みて、心密かに謂へらく、否々時の未だ來らざるぞや、世間の未だ開けざるぞや、婦人が今日の目的、女子が畢竟の幸福は、即ち嫁するより外なきなり、良妻賢母、是れ我が畢生の願望ならめと、而して遑々吉士を求む、然れども吉士容易に得べからず、人物は大下寔に寥々、於此乎乃ち謂ふ、それ、財寶は榮華の王、是れさへあらば則ち足りあん、美味飽くべく、錦衣重ぬべく、車馬乘るべく、玉樓登るべしと、而して千金の家に嫁す、然りと雖どもこれ元來利慾の緣、眞愛固より其中に在るなし、眞愛已に其中に在る無し、知るべし、比翼の竟に相戾り、連理の竟に相衡きて誶詬室空に鳴り、爪牙滿庭に亂り、夫婦所謂る犬猫とある、是れ即ち自然の結果、人もし玆に到らんか、車馬何の快ぞ玉樓何の樂ぞ、美味何の甘きとかは、錦衣何の輕ろきとやは。苦心悶々一

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

生地獄、於此乎又翻つて惟へらく人生の快樂は愛に在り、寶玉に在ずと、乃ち己れを愛するものを求む、而して己れを愛するもの出で來れり、因て直に其身を投ず、然ども未だ人物を撰ぶとを知らざりし、良人殊に我を愛す、然りと雖ども奈何にせん、其人物や高からず、其力量や多からず、常に人に輕んぜられ、常に事業に失敗し、常に窮鬼に逐ひ驅られ、兒をして空しく寒を呼ばしめ、婦をして徒らに奴婢たらしむ、是れその夫の爲人たり、余れ之を扶けんと欲せざるに非ず、我れ之を勵ますとを勉めざるに非ず、然れども既に妻たる女の甲斐なさ、また如何ともすると能はず、一生陋屋に詰痛して死す、嗚乎噫もしそれ茲に至らんか、かねての學問何の益ぞ、かねての文字何の用ぞ、衛生の法を知らざるに非ず、而かも饑寒をすら凌ぐ能はず、何ぞまた衣食を擇ばん、育子の道を學ばざるに非ず、而も死生の巷に迷ふ、何ぞまた理論を問はんや、オー、スツイートホーム、スウイートホーム、汝は學窓の妄想よな、汝は無極の虚欺者よと、怨み喞てども詮方なし、身は埋木と諸共に朽ち果て卒るもの幾許ぞや、然り金銀も愛を得てこそ始めて輝き、愛も人物を得てこそ始めて活く、若し夫れ眞愛なからんか金銀も土芥にひとし、若夫れ人物より出でざらんか、其の眞愛や價値なからん、然り金銀と眞愛と人物との集合躰果してそれ何處にや在る、曰く已に人物と云ふ、また金銀を云ふ勿れ、人物は即はち金銀なり、賢にも人物も時あつて窮す、然れども其の窮するや、天地の大道を守るによる、國家の長計を畫するによる、高天萬里を睨むに由るのみ、豈それ不能の爲めならんや、然り其の眞愛の人物果してそれ何處に在る、曰く寥々、於此乎心あるものは乃ち思ふ、吉士それ將た寥々たらん、莫遮我意決しぬ、たとひ吉士の寥々たるとも、豈等閑に決定してみす〳〵苦境に身をや沈めん、もしや其人なからんか、一生獨り終らんのみ、學窓の理想は夢と消へ、婦人の事業覺束なくとも、今更無愛の家にゆき、今更劣等の夫に伴ひ、爭で一生を泣き暮すべき、爭で自を卑むべきやと、屹然立てゆかんとす、其氣凜然、人をして高と呼び又淸と呼ばしむ、其れ然り然りと雖ども、其立つや即ち止むを得ずして立つあり、其行くや即ち遑々として行ものなり、深く心底を觀じ來たれば則ち血涙淋漓、悲慘の情にたへざるものあらん、見よや日月人を待たず、春とす

ぎ夏と去り、いつしか移りゆくほどに、爛熳たる天眞の性、竟に悲風に傷つけられ鮮妍たる小女の顔、卒に浮世の塵に黑み、而して空しく凋落す。是れ豈に彼等が歸趣に非ずや、嘗て謂へらく、母たるの道は如何に如何にと、然れども子なし我子を奈何にせん。嘗て惟へらく妻たるの道は如何に如何にと、然れども夫なき身を如何にせん。嘗て切りに惟へらく、彼の其の室家によろしうし、彼の其の鄕黨によろしうして、スウイートホームの女王たらめや、其道如何に何處ぞと。其れ然り、然れどもホームなき身を奈何にせん、嗚呼悲痛嗚呼悲痛、美玉空しく泥土に埋もれ、鮮花徒らに空谿に凋む、人生の悲痛も亦た之に過ぐるものあらんや。嗚呼彼れ無邪氣にして孳々らしき、彼の天眞にして神に迫る、彼の優しくして美はしき、彼のにこやかにして嬉しげなる、彼の哀れげにして涙もろき、此の愛物、此の天女、若かも其歸趣や此の如し。是れ將た誰れの罪なるぞや、曰く是れ今日社會の罪あり、之を救ふの道如何。曰く餘儀なし。請ふ之を他日に云はん。

家政

初夏の家政

山下石翁

早や夏とはなりぬ。歌に、

さら〳〵と流れ落ても行水に
　こゝろのとまる夏は來にけり。

と云へり、一家を治むる人の心得べき箇條亦新たになれり。第一に注意すべきは、

家內の淸潔

なり、物の淸らかなるは何時に於ても大切なれど、夏に於ては特更に然りとす。木立物ふり、苔靑き邊りに、一點の塵も立たず、美くしく水を打ちたるなど、分けて快ちよし。之に反し、椽側に砂ほこり積り、窓の內、机の上に迄で其跡を紋して、吹けば立つが如きとあらんには、何如に心地悪しきや。天麗らかにして、光輝やける此の日、所云る明窓淨几の邊り淸らかにして、家內の八面玲瓏たらんとは、正に當節第一の所望あるべし。次に、

早起

の規則を一層嚴しく取り行ふべし。ナイチンゲール女史が言葉に、新鮮なる空氣に續きて尤とも大切なるは光りありと、光りは人を活かし人を躍らす、光ある間だに働らきたる仕事は、効倍にして勞れ半に過ぎず、夜の仕事の及ぶべき所ろならず、然るに、夏は兎角晝の間だ怠たりなまけるものあり、故に朝いと早く起きて、九時十時頃迄に、略ぼ半日の仕事を畢り、午後三時すぎより夕方迄に又の半日の仕事を了るやうにし、其間は、可成く手輕の務めを爲すやうに準備すべし。夏の朝日、東に登り、鳥歌ひ雀囀るの朝天は、何如に心地よきぞ、未だ慣れざる人は、請ふ先づ一と日之を試むべし。一度其味ひを知りたらんものは、到底之を止むると能わず。

ヘーアピン(髮針)の用途さまぐ

女子は髮針を用ひて種々さまぐの事を爲し得るなり、男子が如何なる器具を用ゆるも髮針の重寶なるには如かじ。

一　髮針を用ひて靴のボタンをかけ、髮の毛を捲き、帆を止め、亦頭を掻く。

二　手袋のボタンをかけ、衣服のボタンをかけ、面被をとめ、爪をほり、あゝあはれ、時に齒を堀る。

三　櫛の塵を取るに、白粉箱の蓋を切るに、紙を切るに、栞に、手紙を開くに。

四　其頭を曲れば紐を着く針ともなり、鍵の環とあり、亦は簪ともなる。

五　不意に針の用ある時、其代りに之を用ひ得べし、二種の用を兼ぬるが故に針よりも都合よろし。

六　之を以て衣服のひだをとめるもの、又扣金などの破損を繕ひ、或は樣々の器具の破損せる時、之に少しの工夫して、且つ少しの針金を併せ用ひば直ちに繕ひ得ん。

七　繪の手本を寫さんにはその先きに靴墨をつけて線つくべし。又たはこをガスにて薫らし、眼瞼に色どるに用ふべし。

八　人の見ぬ時は木實を堀るに用ひ、良人留守の時は烟管の掃除に用ゆ。

九　良人家にあり、ガス燈の管或は放水管のつまりたる時、之を拂はんとて針金を、家内のある隈なく探し求むれども見當らず、詮方なき時妻は其髮針を取出して管を拂ふ。

十　レースの窓掛を止め、額面の周圍に飾り物を止むる等に

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

之を用ふ

十一　之を以て釘拔たる器具を繕ふべし、戸を鎖し、内より鍵をさして動かぬ樣にしたらんには心弱き女子も家に在て安心あらん、瓶の口を拔くに用ひ蠟燭の心を切り、手の飾りをとむる功あり。是程用途の多きもの何處にかある。

兒籃

雀に化た小娘の話

ア、〳〵ほんとに嫌になつちまう！

と長い嘆息をつきながら云つた人は、年の頃ろ十二三と思われる顏も眼もクリ〳〵とした、可愛らしい小娘でしたが、今し方、學校から歸つて來たものと見えて、書物や石板の包は側に放り出して有つて、二階の丸窗に頰杖をついた色白ろな手にはわり〳〵と手習の形見が殘つてゐました。窗外に馴れ添ッた松の枝を眺めながら、恰も聞者でもありそうに、胸に一杯な不滿を、涼しい眼のうるほいに漏らして

　ほんとに〳〵嫌だワ。だッて今も母さまが、アノつうは昨日着せ替へてやつた袷に、モウ墨をつけて來たよ、着物を一枚拵らへる丹精はどの位だか、自分はチットモ知らなければこそ、アンナニぞんざいなのだから、來年から平素着は自分で拵らへさせようッテ、おつしやるんだもの、こんな木綿の着物なんか、チット位よごしたッテ仕方がないワ、あたしなんぞよりはいくら好い着物やきれいな帶をメて、學校へ來る人があるか知れやしない、こないだもおこまさんが藤むらさきの縮緬の被布を着て來て、あんまり好くッて欲しくッて仕方がないから、母さまにおねだりしたら、アノ小學校へ通つてゐる中は、そんな物はなくッてもよい、卒業でもしたらお祝に拵らへて上げようだッテ、モウ〳〵がッかりしちまッたワ。マアそれはそうとお庭が知らない間に青〳〵として來たと、そうしてアノ雀が嬉れしそうにチイ〳〵いッてると、イッソ鳥にでもなッちまつたら氣樂で好くはないかしら、そうすれば學校へだッて行かないでも好いし、嫌な〳〵裁縫ナンテ」なくとも好いし、それから母さまに叱られる事もないし、ア、そうだ雀になッて見たいワ。

　つうさん、ほんとうにですか？、

と少さなチイ〳〵ごゑでさへずる樣にいわれて小娘は、ビックリし、何處から其聲が出たのかとキヨロ〳〵すると、今ま

で處在なさに、眺めるともなし見つめてゐた、松の木にとまつてゐる一群れの雀の中の一羽でした。雀が口を開とは舌切雀のお話に計りかとおもへば、まだ外にもあるのか、それに自分の名を知てゐるとワ、と思ひながらも小娘は平氣な顔で、

アヽ、ほんとうなら、どうだへ?

ほんとうならお望みどうりにある工風があり升からさ

オヤそう、お前はほんとうに氣樂そうだね、チイ〳〵つて毎日〳〵お庭の梅の木や松の木を飛びあるいて、心配もなかろうし、叱られるとも、お稽古も何もないんだね、どうも好さろうだね、

そんなら直渡とり替りませうか?

何かへ? おまへがあたしになッて、あたしがお前になるのかへ?

エーそうですとも、それでなくッちやあなたが雀におなりなさる事は出來ませんもの、

ソウ何んだか面白ろそうだワ、そんなら直渡代ッて見やうか?

ソンナラつうさん、一寸眼をふさいで、一イ、二ウ、三イと云つてごらんなさい、いふ中に替りますよ、

どふれ、一イ、二ウ、三イ!、

云ふや否、身は松のみどりの最中にチヨコンとまッた、とまりぜい四寸にも足らぬ小雀と化けてしまいました、

おやマア、これは變とおもふて、と見ると、向ふの丸窓の中に平氣で坐ッてゐるのは、まがふ方なき自分、イヤ自分ではない今の雀、マア、變と云へばこんな變な事があろうか、何か云つて見ようと思ふと、出る聲は何んでもかんでもチイ〳〵又チイ〳〵、其中に母さまがパタ〳〵と二階へ上ッて入しッて、手に紙包のお菓子らしいものを持つて入しッて

オヤ、つうやこゝにゐたかへ、これをとつて置いて遣つたよと仰つしやると、雀の自分が

母さま、有難う、頂戴いたしますなんテ、とんといつも自分がいふ樣な調子でいつてゐて。それを見れば彼の雀が浦山しくも悪くらしくもなつて來てたまらない、よく沈まらない胸を沈めて前后を考へて見ると、アノ雀が取り替ろうといッたのは、自分をうらやんで態とあんなとを云ッて、だまかしたのかも知れない、そうして一度取り替れば又元にはなれない

とも何ともいひやしなかッた。アレ〳〵母さまはあの惡らしい雀をヤッパリあたしと思つて、あんなにやさしい聲で何かいつて入ッしやる、時々お叱りなすッたッて母さまほど好い人が、何處にあろう、ア丶勿躰ないとした、母さまアー、それはあたしではありません、と云はふとすると、又チイ〳〵チイ。コレハたまらないと松の枝の上の少さい足でじだんだふむと、其足音が存外大きくバタ〳〵〳〵として、眼が醒めて見ると、自分はヤッパリ元の身で、側に立つて入らッしやるのは、今二階に上つて入しつた母さまで、

オヤつうや、そんな處で寐て居てサ、夕方は未だ冷々するから風を引き升よ、サアお菓子を持つて來て上げましたよ。

小娘は眼を擦りながら

母さま、あたしはモウ雀になつちまッて、母さまの側へは來られないのかと思ひましたワ、モウ〳〵これからよく、云ふことを聽て裁縫でも何でも精出しますよ、ねい母さま、堪忍して頂戴よ。彼布も何もいりませんからどうぞ……

オホ丶丶、此子は何を云つてゐるんだろう、誰れが雀になれるものか、お前夢見てゐた子。

批評

○日本評論の韻文

雲峯生

詩想の輕んず可らざる事云ふまでもあらず、昔は人の感激する所發して詩となれりと云ふ、是己が思想をよく人に傳へ、人を感ぜしめ、若くは樂ましむるには自ら一定の句調語格を要したるが故なる可し、これ古來詩若くは歌なるものが自然に定りたる躰裁を備へし始めなる可し、されば今日に於ても亦句調語格を輕んず可からず、絕世の大詩人にして若しよく其云ふ所悉く詩となるに於ては殊更らに句調の事を云ふの必要なかる可し、されど通常の人は始めに先づ語格句調を學ぶか、若くは考へざる可からず、近頃韻文の事漸く盛なるに當り、吾人は先づ其躰裁につき畧ぼ考ふる所あるを要すと信ず。嘗て吾人は云へり全く我國語に適するは七五調を第一となすと、されど古來五七の調も全くなかりしに非れば用ひんと欲すれば用ひ得べし、日本評論第廿九號に出でたるゆり氏の作「胡蝶におくる」と題する一韻文、大ひに五七の調に近し、されど五七とも七五とも讀得可し、例せば「はるかぜに、たはる

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

る蝶の」と讀切りても可なり、「亦たはるゝ蝶の、ひとつがひ」と讀みつゞくるも差支へなし、終迄殆んど此類の句調なり、されば純然たる五七とは見えず、吾人は尙ゆり氏が一考せられん事を望む、吾人亦聊か驥尾に從つて尙究むる所あるべし其詩想に於ては甚だ妙ありといふ可し、句調の事尙云はんと欲して盡さず、他日を期して述べん、十二日妄批多罪。

○讚美歌てびき　　雲　峯　生

こは新撰讚美歌に似たる小冊子にて戸川殘花君の著なり、今此著を見るに至つて余は今日迄何故に斯る有用の書物を著はす人なかりしかと怪く思へり、そは會堂にてあまたの信者が集まりて讚美すれども只小兒が人の言語を眞似るが如く少しも意味を知らず、只人の歌ふにより、之に附從して聲を發するに過ぎざればなり、斯る事にては讚美するは只鐘鈸の空しくひゞくと何ぞえらばんや、今此てびきにより人々よく意味を了解したらんには始めて心よりの讚美をうたひ得べし、又後半篇にある讚美歌作者の畧傳、歌の由來を記せるは甚だ有益なるが如し、余は此書を以て信者の一讀すべきものと思ふなり。

時事

凶變暴行

あゝ何たる事ぞ。竪子大事を誤まる。四千万民が駸々たる行路、端なく一狂夫が瞬間の暴手によりて壞らる。

津田三藏と云へるもの何人ぞ。かれ時に臨んで屢ば狂したるとありと云へり。然らば此回の事亦一時の發狂に過ぎじ。然れども、抑そも何ものか彼が心を激して其頭腦を癲亂せしめたる。

幾多の由緣あるべし。然れども、吾人は先づ彼の僞慷曲慨の似而非愛國者を第一に叱責せざるを得ず。彼等が狹量は憫れむに堪へたり。然れども奇矯激烈の躰を裝ふて、壯年を煽動し、無邪氣の白心に邪劣の情を躍らせて、一時の客氣を東洋の靜波に攪動せんとす。其の不倫不當の言論、文辭に現はれて田舍の正直ものを激させ、神洲は明日にも知れず、夷狄は今日の中にも攻寄するかの如くに杞憂して、遂に由々しき國家の大事を惹起すに至る。其の責め、多くは、僞善曲矯の主動

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

者にあり。

〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓、〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓。〓〓局小偏狹の徒、常に大事を誤まる。保守々々、國粹々々。汝等が爲す所は何事ぞ、云く、日本人民が万國に屹立せる地位を引下るとなり、條約改正の地歩を壞破するとなり、天馬空を驅るの駿足を縛束するとなり。

維新前に在ては瑣國論となり、今日に在ては新保守論となる、大事を誤まるに於ては一也。吾人は素より、蹈舞、玉つき、キス、などの洋僻論に同意せざるものなり。年來強く之に反對したり。然れども彼の僞わりて愛國を装ふの狹量漢に對しては、白の黒に於けるが如く相反す。

あゝ、日本よ、汝は千古未曾有の出來事に會せり、汝は深く考へ、正に眞面目の決心を爲すべきの時機に臨めり。たわれたるお化粧は役に立ず、臆病なる恐懼は意氣地なし、大勢を知らざるの細見は殊に憫れむに堪たり。汝は深く自省して其運命を考ふべきの時となれり。

吾人は信ず、日本東洋に屹立す、天の命豈に偶然ならんや、須からく上帝を寅れ、大道を確信し、仁義を踏み、正直を嚴守すべし。斯て着々歩々豪宕の進路に進み、敢て失意せず、敢て高ぶらず、正に其天命天務を盡すべき也。

○皇后宮陛下の愛仁

大津の凶報、宮裏に達するや、皇帝陛下の御悩み一と方ならず。貞愛仁慈の皇后宮陛下御傍はらに居まし、主上の御歎きを、さこそと推せられ、恐れ多くも御涙を玉の御袖にてせきとめ、陛下願はくば左な思ひ煩らひ玉ふとある勿れ、われ今より西に下り、皇子の御災を慰さめ參らせんとの玉へるこそ有がたけれ。陛下は、されど許し玉はず、御身こそ左な憂ひ玉ふなかれ、朕直ちに趣むきて之を訪はんとて、扨ては、十二日のあさ、霧深き頃ほひ早く御車をきしらせ玉ひける。

○廢娼運動

全國廢娼同盟會の年會は、昨年の經驗により九月に開かんとを決したり。但し、東京廢娼會の委員は、今や會議し大ひに計畫中なりと云へり。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

問答

可愛子

●問。基督教信者の樂しい、麗はしいホームの事を書いた書物はありませんか（熊本まさ子）。●答。書物は別に見たとがありませんが、曾て女學雜誌の社說に、日本の家族といふ題と、理想の佳人といふ題で書いた文章があります。

●問。貧民で、勞働に堪る者が、全家北海道に移住を望む者がありますが、如何な手續に致したら宜しう御座いますか、適當の法を御教示下さい（在東京一女子）。●答。府廳か、又は地方々々の縣廳へお願ひなさッたら、それ〳〵の規則に從て取扱を致してくれませう。

●問。滿一歲ばかりの小兒が、餘程食を欲しますが、與へても宜しう御座いますか（上毛一賤女）。●答。アンマリ食べたがるのは病氣でもあるではありますまいか、お醫者樣に見てお貰ひなさるがよろしう御座います、又食物を與へますにも、粥の湯か、粥などを少しづゝ與へ、過ちのないやうになさるゝがよろしう御座います。

●問。女の手習かた〴〵用るやうな作文書はありますか（一少女）●答。兩用兼れた書はたゞ今ありませぬようです、ヤハリ小野鵞堂の習字帖などが宜しいでせう。

●問。舊約聖書箴言、第三十一章六節の終りに酒を心の傷めるものに與へよとありますが、それならば、禁酒會員でも、心の傷めるものに、酒を與へても宜しう御座いますか（南翠女史）。●答。禁酒會員が、人に酒を與へるなどゝは、どうあつても、なりません、ナゼなれば、禁酒會は宗教信者のみの會ではありませぬからです、又舊約書の酒の事に付ては、或る書に由て見ますると、其時分の酒は、たゞ葡萄の汁を搾つたもので、マダ醱酵させないのだとあります、此說が若しも誤りであつて、今の酒と同じやうな酒だとするも、現に害のあるを知つて居るものを、人に與へるのは罪であります、尤も病氣の時、醫者の命にて、葡萄酒など用るは論外です、且つ舊約時代は、如何なる時代であつたかといふをも思はなければなりません、彼の舊き時代、クリスト未だ世に下らざる時代の事を、其儘今の世に丸呑に用るなどの事は、決して宜しくありません、酒は百毒の本です、人を墮落せしむる魔藥です、世のクリスト教信者の中には、自分は過ちがないから飮んでもよいなどゝ申す人もありますが、之が爲め幾人を躓かせるかを思はなければなりません、クリスト我等に教へて、凡そ我を信ずる小子の一人を礙かするものはその首に磨を懸られて海に投入られん方その人の爲めになほ善かるべし、と仰せられたではありませんか。

通信

可愛子編

●山梨縣通信

山梨通信員報

●婦人の運動　縣下の婦人は、一人も社會運動などに、力を盡すものなし、たゞ山梨英和女學校教師金子せん子氏あり、熱心に社會上の事に盡力す。

●茨城縣通信

水戶通信員報

●水戶市中等社會以下の婦女子　當地中等社會以下の婦女子は、大抵手內職をなして其生計の助をなせり、其內職の種類は樣々なれど卷烟草製造、ハンカチーフの裁縫等は、二十歲以下の女子の職業たるべく、烟草の葉卷き貫針仕事等は、細君の常業たるが如し、又水戶近在の女性は其土地の物產に從て、或は製紙に、或は養蠶に、或は蒟蒻粉の製造に、尠なからざる賃銀を得、生計を營めり。

●高知縣通信

山中直行報

●高知市第一高等小學校にては、此度女生徒より先づ英語課を廢して、換ふるに裁縫、料理等、女子必須の科目を增置する由。

●英和女學校は近々校舍新築に決し、旣に先般鷹匠町に凡そ五百坪の地面を購求したり○又仝校鳴嚶會發行「寶の梅」は、過日第二死を發行せり、○仝校教員米人グリナン、及仝夫人は、此度當地を去り、神戶に轉住さるゝに付き、仝校職員生徒一同は、過日右兩師を聘して送別會を開き終て一同撮影したり

●小杉視學官　が先般來縣したる節、束髮は宜しからず、日本髮をよろしとす（但し理由は云はず）と、演說せられしより、當市尋常中學校女子部生徒は、段々と束髮を廢して、銀杏返しなどに結ひ、今は殆んど全校束髮を見る僅々にして、仝校女教員も、束髮よりは日本風がよろしと常々申聞けるより、僅々の束髮連も、五月蠅ながら、又々前の髮に結はねばならずと、迷惑し居る者もありと聞く。

●貧民學校　は、當市高知教會に屬する婦人達ちの發起にて、此度當市青年會館內に立てり、書籍紙筆等も一切貸渡して、無月謝にて、貧兒を集め、教導補育せんと旣に開校式を爲し、目下生徒十四五名あり。

女報

可愛子編

●皇后陛下の御懿德　去る四日、歌舞伎座の養育院慈善會に於て、皇后太夫香川敬三氏は、東京市養育院の幼童世話係長、瓜生巖子女史（六十三）を特に招きて申さるゝ樣、曩日に刀自より、皇后陛下へ獻上ありし飴糟製の麵麭は、辱くも御受納あらせられ、且つ刀自の履歷等を聞こし召し、件の麵麭を味はせ給ひ、斯くの

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

如き美味の品を廢物より利用するさへあるに、多年心を窮民の憐救孤獨の養育に盡すは、誠に滿足に思ふなり、との令旨を敬三等に傳へ給ひ、宮中に仕ふる女官達に、右の麵麭を頒ち賜はりしが、今日幸に刀自に面せしを以て、玆に　陛下の御令旨を傳へ申すなりとありしかば、刀自は身の面目と、　陛下御仁愛の深きに感佩して暫時は答も得せず、唯感泣に咽びたりとなん。

●慈善婦人の一隊養育院を覽る　東京市養育院慈善會員の內にて、閉會後該院を一覽せんとて、一昨日午後一時頃より、該院に來りしは、會長蜂須賀侯爵夫人、及び穗積（歌子）、石川（米子）、田中（美知惠子）、大川（照子）梅浦、銀林（かれ子）、四園寺（つる子）の各婦人、及び淺野、梅浦兩氏の少孃等なり、府廳第三課長安達養育院幹事の案內にて、各室を巡覽し、入院者一同へは菓子及び物品を施し、且つ瓜生岩女を招き、種々の談話もあり、幼童室にて各婦人手づから菓子を與へ、小兒の遊戲するさまなど熟覽して、岩女が該院に麗入られし已來、幼童の有樣の一變したるを感じたりといふ。

●慈善會の揚り高　木挽町の歌舞伎座に於て、三日間催したる養育院慈善會にては、諸入費を引去り、三千餘圓の收入を得たりとか。

●恩賜の夜具　皇后陛下には先頃福田會育兒院へ御立寄り遊されし際、同院幹事毛利公爵夫人、三浦子爵夫人を御側近く召させられ、育兒等が夜の調度に付き、殊に御意を掛けさせ賜ひ、畏しこくも御手許より若干の金子を御下賜相成りしにより、同院にては今度布團敷布各二十枚、大蚊帳三張りを新調し、御思召のほどを申聞けし處頑是なき小兒等も優渥なる聖慮に對し、聲を放つて啼泣したるものさへありしと。

●皇太后陛下　は去る十一日、日本赤十字社病院へ行啓あらせられたり。

●有栖川宮妃殿下の歸京　有栖川宮熾仁親王妃殿下には、姫君御同伴、過日鎌倉より御歸京ありたり。

●校長の更迭　女子職業學校長服部一三氏は、今度岩手縣知事に轉任せしを以て、同校長を辭退し、後任は東京工業學校長手嶋精一氏を推薦せりと。

●女生徒の送別　女子職業學校にては、生徒一同、前校長服部一三氏の赴任を送る爲め、裁縫雛形、編物、造り花、刺繡、圖畫等、其科に於て丹誠を抽んで製造せし物品を贈進せりと、同氏は去十一日、上野發の滊車にて出發、岩手縣へ赴任されたれば、見送りの生徒皆淚を袖に絞りしとぞ。

●那珂通世氏　非職元元老院書記官那珂通世氏は、去る六日華族女學校教授（奏任官四等賜三級俸）に任ぜられたりといふ。

●校友音樂會　過日芝公園彌生館に於て開きたる、同公園內東京女子手藝學校々友音樂會は全校生徒の活花並に編物縫擬椽物花笄等總べて手藝より成りしものを陳列して會員の縱覽に供したり、發起人は町田やす子、古莊はる子等にて、贊成者は丸山宇米古子、増田榮子、吉川勢子、其他數氏なりと云ふ。

●東京府下女學校生徒の數　華族女學校（三百〇九人）、女子高等師範學校（八十六人）、東洋英和女學校（九十九人）、跡見女學校（二百三十二人）、東京英和女學校（三十八人）、女子學院（百七十二人）、明治女學校（二百人）。

●軍人禁酒會に加る　近衛兵第四聯隊若宮浩氏、外四十五名は、軍人が戰塲に於て、往々意外の敗を取るは、多くは飮酒の爲めにして、彼の十年の役に於けるも其例に乏しからず、苟くも身軍籍に在りて、護國の任を盡さんとすれば、飮酒を禁ぜざるべからずとて、今回禁酒會に加盟し、過日銀坐會館に於て、禁酒奬勵會を催せしに、安藤太郎、根本正氏等、外數名の演說ありたり。

●禁酒演說　本日午後二時より、四ッ谷荒木横町福音協會に於て、安藤太郎、小方仙之助、平田某氏等の禁酒演說あり。

●日本美術總會　は五月十日、上野華族會館に開會せり、集る所の紳士貴女、無慮四百餘名。

●武市氏の未亡人　勤王家故武市平太氏の未亡人トミ子（六十二）は、去九日宮內省より種々の物を御下賜ありたり。

●子もり車　何人の考へ付きにや、二疊敷程の美麗なる箱を車に付け、黒の玉羅紗にて馬を造り、之れを箱の正面に結び付け、自ら馬丁に紛裝ちたる三十七八の男が、土地の子供（三四才の者）を預りて之れに載せ、上野公園地より池の端邊を引き歩行き、菓子二ッ與へて一時間の傳を爲し、假五厘と云ふ商賣を創めたる者あり、昨日は乘客の申込み中々に多かりしといふ、一臺の乘客は十人を限るとのこと。

●婦人物の質入れ　昨今質店に持込むもの、中貴婦人の衣類殊に多しといふが、扨其所以を聞糺すに近頃上流社會の婦人中に、花見その他の賭事大いに流行し、夫等の資金に要する爲め密かに衣類を持出して質入婆に托する者多き故なりと、歎ずべし。

●海外渡航女子の監督　と題して、去る十二日の郵便報知新聞は、其監督の方法を盡さゞるべからざるを論告したり。

●女子に辨護士たるを許するの可否　てふ討論は、去る十日の法律質議會にてなせし由。

●京都の幼稚園　は上京區に九ヶ所、下京區に八ヶ所あり。

●故宗諄女王殿下の御法要　は去る三日、終東南隣等の法堂にて修行ありたり。

●日本に於ての結婚年齡　は平均、男子二十二歲十ヶ月、女子十九歲一ヶ月なりとぞ。

●世界中にて最も富裕なる婦人　は南米智利國のドナ、イシドラ、コーシノと云ふ、本年四十五歲の寡婦なるべし、土地、家畜、船、製造所、鑛山、株券等の莫大なる財產は、婦人自身も其限りを知らぬ程にて、其內南米第一と稱する一ヶ所の鑛山の如きは、一ヶ月の收入一万六千二百五十磅に上ると、婦人は再び結婚するの望なしと謂ひ居る由。

●小兒保護會　本年の英國々會には小兒保護の議論ありき、又同會が可憐の小兒に著しき保護を加へたるは明らかなり、只に虐待せられ、食物不充分なる小兒に對してのみならず、兩親の貪慾ある爲め（左程貧困ならざるも）金儲けをなさしめんとて躰力に過ぎたる勞力を爲さしめられし小兒等に大いなる保護を與へたり、過る數年間は醫師社會に於て一定の年齡に達せし者は皆製造場若くは工業場に入ら

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

しむるを可とするや否を聞かんとて待居りしなり、而して今や國會に向つて小兒保護會の必要なければ之を廢止せよとの建議を爲す、其大意に曰く既に勞働年齡に達し、普通入用の教育をも受けたる者にして尙未だ身躰薄弱にして勞働に堪え難き者は醫者の診斷なくんば之を保護するの道なし、故に小兒保護會の必要なしと、されど保護會に於ては大ひに之に反對し、保護會の必要を說き、實際必要なる例證を擧げて論ずるよし、不完全なる論理は到底大功なし、吾人は益此會の發達隆盛を祈る。

●南洋に於ける女子撰擧權　ニウジーランドにてジヨン、ホール氏が女子に撰擧權を與ふべき說を主張せし爲め國會議員の多數之に贊成を得たりと、亦アウストラクアにても本年市街議員は女子も撰擧せしとなり。

●南濠州の女權　南部アウストラリヤにては女子撰擧權問題下院に於て可決し、之を上院にまはせり、而し之につきては憲法を改删するを要し、之を遂ぐるには議員惣一致ならずば能ざることなれば今年は決する所なくして閉會となれり、思ふに今年の議會に於ては全く可決すべし。

●フランシス、ウ井ラード　嘗て女子演說家の泰斗ヂツキンソン女史ありて今日の女子は演擅に立つを得るものなれば女子演說家各一度づゝ先導者なる女史の爲めに演說し目下女史が家計に對し義捐する妨よろしかるべしとウ井ラード女史頻りに遊說するよしなり。

●眞の同胞主義　ロポルト、アダチス氏曰く女子は何人も人の娘たり、姉妹たり、妻君たり母たるを得べし、只男子をして各女子に對して娘の如く若くは姉妹の如く、妻の如く、母の如くあらしめよ、亦女子をして各男子に對して子の如く、兄弟の如く夫の如く、父の如くあらしめよ、他の女子に斯くある事をすゝめよと、蓋し眞の同胞は人々斯く思はずんば行はれじ。

●理想の眞人　合衆國テン子ツシーのリリアンペリーてふ婦人は「如何なる男子を眞人とすべきや」の懸賞文を書て賞を得たりしが、其文に曰く「余若し結婚せんと欲せば(無論欲せざれども)高貴にして卑野なる行を爲さず、去れば大氣にして人を寬容する男子を望べし、女の如く溫和に、男の如く勇俠に、決して誹謗不快の言を發せず、且つ余其人の名を誇り、余の心配疑義を訴へて慰を得、眞に同情と喜悅を生じ得べき男を望むべし云々。

週報

●政治　五日中正日報解停●本日條約改正に關する自由黨員の演說會あり。

●天文　十日水星、太陽を經過す。

●叢報　六日兒島惟謙氏大審院長に任じ、北島親驛氏大阪控訴院長に任ぜらる●十一日露國皇太子殿下、滋賀縣大津町御通行の際、狂人の爲めに御負傷遊ばされたり、十二日拂曉天皇陛下御見舞として、御發輦遊ばさる。

●日本全國女學校卒業生人名人數一覽(學校創立より本年四月に至る、)(第三)

●東京の部(二)

●共立女子職業學校(前號より續く)

石橋つる子　野村ゑつ子　隈部ひさ子　有田のぶ子　忍さつ子　鈴木たけ子　齋藤ひさ子　岩田まさ子　小野さみ子　豊嶋なか子　北澤しう子　太田ひさ子　藤沼きん子　太谷すゞ子　吉岡ひさ子(以上甲科編物部卒業)(合十五名)

吉岡しづ子　水野もと子　戸塚まつ子　新庄らく子　志賀たつ子　小澤あき子　大澤せん子　佐野みつ子　奥村うめ子　中村きつ子　松田きよ子　川上ます子　鵜田おか子　古川きく子　福西さら子　末田いろ子　豊原しけを　矢吹みきえ　栗原せん子　八太さえ子　芳賀まち子　小野やえ子(以上乙科編物部卒業)合二十二名)

神たき子　清宮てる子　橋本ゆき子　木村てる子　齋藤さと子　志賀さり子　兼池しづ子　六角こう子　三浦せん子　上野ちやう子　眞砂野わか子　今井よし子　中屋くす子　太田ひさ子(以上甲科刺繡部卒業)(合十四名)

丸山けい子　吉川ちよ子　遠田かつ子　伊藤きん子　松田たけ子　豐邊さめ子　瀧田きむ子　村上やす子　草野しづ子　香坂さかえ子　近藤あい子　神中つるえ　皆川くり子　田村しう子　長嶺すい子　渡邊あやえ　富田たか子　長谷川ふじ子　石渡かよ子　葉山なほ子　柴田さは子　坂井たき子　平塚つや子(以上乙科刺繡部卒業)(合二十三名)

新庄らく子　石川みえ子　大谷さだ子　松坂まつ子　鈴川つる子　岡本みつ子　石川たよ子　水野もと子　杏ちよ子　小澤のぶ子　山元ゑい子　吉野けん子　兒玉やえ子　堀口ふく子　戸坂ちき子(以上乙科造花部卒業)(合十五名)

神たき子　那須しむ子　山田たけ子(以上甲科圖畫部卒業)(合三名)

內藤かぢ子　內藤よれ子　清水きれ子　山本しげ子　吉成はる子　吉田れい子(以上乙科圖畫部卒業)(合六名)

●長榮女學校

鈴木しほ子　壹岐さだ子　大富坂たけ子　明石よし子　嶋濱江　丸岡みよ子　竹山春治　竹下つま子　山薩ちよ子(合九名)

●明治女學校

久野しげ子　千住千代槌子　松井まん子　土屋ため子　山口つる子　神中みさを子　吉岡さし子　喜多嶋てい子　逸見きゑ子　瀧口こう子　江間きよ子(以上普通科全科卒業)(合十一名)

前嶋むつ子　工藤かつ子　川上ちか子　福田よう子　小杉すげ子(以上英學撰科卒業)(合五名)

土屋ため子　松井まん子　安藤たれ子　佐藤すけ子　鈴木けん子　高原うめ子　宮嶋なつ子　吉岡さし子　久保さみ子(以上速記科卒業)(合九名)

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

品名	五月十四日
白米（一円ニ付）一等米	一斗〇升〇合
二等米	一〇二
三等米	一〇八
四等米	一一二
五等米	一一七
正米（一円ニ付）越中米	一斗五升一合
越後米	一四二
美濃米	一四〇
尾張米	一三八
肥後米	一四四
雜穀（一円ニ付）本大麥	二斗四升〇合
上小麥	一六二
竹林麥	一四〇
梅澤大豆	二一〇
青柳大豆	二〇〇
吟小豆	一五〇
白胡麻	一二四
黒胡麻	一四五
鹽（一円ニ付）赤穗	三俵八〇
大揚	三九〇
本齋	五七〇
新齋	六二〇
醬油（一円ニ付）最上	八樽一分厘
極上	九二
上物	一四〇
中物	一九〇
並物	二三〇
味噌（一円ニ付）地製上白	六貫、八〇〇
同上赤	六、八〇〇
同紅赤	四、八〇〇

品名	五月十四日
夏織物（一反ニ付）薩摩上布	円七、八〇　二〇、〇〇
越後上布	四、七〇　六、〇〇
同縞	二、七〇　四、五〇
同紺絣	二、五〇　三、五〇
透屋絣	二、七〇　三、五〇
明石縮	四、七〇　五、八〇
奈良絣	一、二〇　二、〇〇
能登縮	一、三〇　二、二〇
越後縮	二、一〇　二、七〇
薩摩紺絣	一、三〇　四、五〇
同白絣	一、〇〇　一、七五
鳴海絞	七〇　一、八〇
白絽羽織地	三、八〇　六、〇〇
京御召縮緬	六、〇〇　八、三〇
桐生御召縮緬	五、五〇　八、三〇
銘撰縞	二、二〇　三、八〇
結城紬	四、五〇　五、七〇
壁一樂	七、二〇　八、八〇
珠珍女帶	七、〇〇　二五、〇〇
夏向木綿織（一反ニ付）糸入愛國縞	七〇錢
養老絞	三二
紺縫絞	四四
佐織鼠縞	三六
玉井正紺絣	七〇
蚊帳（一張ニ付）五六五尺	円四、〇八
五七五尺二寸	五、一八
六八五尺五寸	六、三五
六九五尺八寸	七、〇一
七八同	七、一二
七九同	七、七六
七十六尺	八、六二
八十同	九、四〇
十々同	一〇、六〇

品名	五月十四日
製茶（一貫目ニ付）新駿遠稀頭	円二、四五
同大頭	一、八五
同中頭	一、六〇
同中茶	五〇
同伊豆稀頭	一、六五
同大頭	一、四五
同中頭	一、一五
新地廻稀頭	二、〇〇
同大頭	一、七五
同中頭	一、四五
古山城江州稀頭	二、三五
同大頭	一、八五
同中茶	一、〇〇
鰹節（十貫目ニ付）薩摩大	円一六、五〇
伊豆上	一九、〇〇
城の腰同	一八、〇〇
遠州同	一七、五〇
房總同	一五、五〇
銚子節同	一四、〇〇
小戸磐城上	一四、〇〇
南部仙臺大	一〇、〇〇
土佐大	一一、〇〇
水油（一樽ニ付）地水	円七、三〇
胡麻	九、六〇
荏油	一一、六〇
桐油	六、六〇
綿油	六、四〇
坂水	八、七二
石油（一箱ニ付）チヤスター	円一、六五
デボース	一、六七
ホーキ	一、六八
ロシヤ	一、六一

女學生

第十二號

月の圖あり

細舟錦波の上に棹さし好友互ひに談ず景何如

一層改良して出で來りぬ。春夜明

毎月一回發兌●一冊郵税共六錢

女學生
勉學の一問題……星野愼

まとひの縫
鎌倉、春夜の友……暗光
小川の流れ……假名子
まとひの唱歌……金光子
枕頭一感（勝敗、勇怯、儉吝）……天知子
現出す、無形の人物……川合信水
愛なる哉……方寸子

睦びの家
困苦の軒端（上）……（女子學院）秋野すゞ子
性を戕ふ勿れ……（女子神學校）佐藤徳子
春さめの涙……（明治女學校）星野ゆう子
私の婚せざる理由（下の卷）……（女子學院）秋野女史譯
手かく事……（女子神學校）森田千子
花開風雨多……（共立女學校）岸多加子
東洋の婦人……（立教女學校）栗原優子
風嫉むが如し……（横濱共立學校）岡田於菟子
遼東の豕……（女子神學校）北條衣子

寄せぶみ
愛する妹の歸郷を悲みて……のぶ
雲峰子と暗光子……川合信水
女學生第十號を讀む……分部盛之
望郷……望郷生

學びのしをり
唐詩選解義
翻譯考（其三）
文章の心得（其一）

春の夜ばなし
山姥の怪談。德川公の感嘆。東坡小妹に戯る。

女學雜誌社發行

●女學生全盟各女學校は左の如し
○明治女學校○女子學院○新榮女學校○女子神學校○共立女學校○フエ[illegible]和英女學校○頌榮女學校○跡見女學校○立教女學校○成立舍女子部○[illegible]立學校○海岸女學校○長榮女塾○東洋英和女學校○青山英和女學校○[illegible]學校○高田女學校

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

家庭廉價 女學書類發行　女學雜誌社編輯

子供の談　紙數八十葉　郵稅なし　定價十二錢

右は子供の爲になる好きお話にて、母親が言ひ聞かすに結構なる材料なり。第一、田舍音樂師。第二、蟻の君。第三、熊と旅人。第四、風と日の喧嘩。第五、ハイ〳〵とダヾイマ。第六、カンとクッド。第七、王にも勝てる人々。第八、母の愛。第九、柔順なる娘。第十、英雄の所業。第十一、ましき兄妹。第十二、正直な樵夫。第十三、慾婆。第十四、忠義の家來二人。第十五、不思議の新衣裳。第十六、小娘とガマ。第十七、尤も悪き所行。第十八、正直なる小娘。

西洋女禮　紙數六十七葉　郵稅なし　定價十二錢

右は、婦人紹介の事。婦人書面紹介の事。婦人訪問名刺の事。婦人會話の事。婦人案内の事。散歩、かざり、宴會の事。食卓上の心得の事。婚姻の事。客を遇する事などに分ち、西洋貴婦人の心得を一と通り平易に解明したり。

女子生理　紙數百九十葉　郵稅なし　定價廿五錢

右は、月經の事。懷姙の事。分娩の事。の三つに分ちて、くはしく女の生理の事を説き。且つ長谷川泰氏が婦人病の元因、村岡範爲馳氏が眼鏡の話と云へる二つの論を附錄としたるもの也。

和畫案内　紙數百卄葉　郵稅なし　定價五錢

右は八木兼辰氏の講述にかゝるものなり。

兒育て草　紙數百六十葉　郵稅なし　定價二十錢

右は育兒の心得を問答躰にして、人の氣のつかぬ細かなる事迄で一々說明し、母として子を育つる總ての心得を悉とく講述したり。

邦文學　紙數百六十葉　郵稅なし　定價二十錢

右は同志社教師松山高吉君が講述にして、和文躰の文法、語格を、極めて細密に說明したるもの也。

女學雜誌社出版書目

著者	書名	冊數	價
鈴木弘恭大人述	つれ〴〵草講義	一冊	價八錢
鈴木弘恭大人述	文法口授	一冊	同十六錢
鈴木弘恭大人述	百八一首講義	一冊	同三十五錢
船越鼎太郎君著	產婦小兒攝生法	一冊	同十六錢
關輪正路君纂	ひめ鑑	一冊	同四十五錢
中島俊子君著	善惡之岐	一冊	同卅五錢
横山雅男君著	婚姻論	一冊	同十六錢
島田三郎、植木枝盛兩君演説	廢娼演說	一冊	同五錢
巖本善治述	妓樓全廢	一冊	同五錢
島田三郎、巖本善治兩君同著	公娼可滅	一冊	同五錢
農學士寺尾熊三君著	植物學	一冊	同十二錢
林學生星野愼君著	混虫 植物 金石 採集法	一冊	同十二錢
明治女學校教師八木兼辰君著	和畫手本	四冊	同壹圓
女學雜誌社編輯	演說著作材料	八冊	同四十錢

下六番町六番地　女學雜誌社

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

生等委員各學校ノ推托ニ應シ來ル七月下旬箱根ニ於テ
第三回夏期學校設立ノ計畫罷在候處何分資金不
足ニテ万端捗リ兼候間大方諸君ノ御寄付ヲ仰キ以テ此事業ヲ成功仕度就テハ御思召ノ御方ハ麹
町區三番町十番地福音新報社又ハ下名ノ會計主任者宛不拘多
少御送金被下度此段雜誌上ヲ以テ御願申上候
尚ホ御送金被下候節ハ拜受ノ證トシテ御姓名ヲ新聞紙上ニ
記シ請取證ニ代ヘ候

牛込區北町一番地
高等商業學校委員(會計主任)　上領純一
東京英和學校委員　笠原民次郎
第一高等中學校委員　鹽谷榮
東洋英和學校委員　小澤孫太郎
明治學院委員　遠藤維䉼
立敎學校委員　松木貞次郎
同志社委員　草部一男
東京專門學校委員　田川大吉郎

從來のレーメ學校今般擴張シ毎週三回手藝を敎授す(但シ無月謝)悉細は神田區仲猿樂町十七番地ヂルクス宛御問合せ被下度候

本郷區弓町壹丁目二番地普及福音敎會内
手藝教授所

東京
家禽雜誌　第拾二號　四月廿五日發行

●七面鳥及孵卵器の細圖●本誌一週年祝辭●孵卵器の構造法●米國家禽審査法●寄書●養鷄は婦人の餘業たるを望む●種禽家諸氏に一言す●プリモースロック鷄ニ就て●叢談●小禽雜話●小禽蕃殖法養鷄實用談●家禽制勢術●質問新題數件●雜錄數十件定價壹部金八錢半年分六册前金四十五錢全國無遞送料

注意　向半ヶ年分前金御拂込之諸君へは本誌創業一週年の祝意を表せん爲め來月發兌の第十四號を以て彩色家禽畫の一大附錄を進呈す

發行所　東京神田猿樂町一丁目一番地
東京　家禽雜誌社

史海

毎月一回發兌(時として兩三回)
代價郵稅共一册金十錢十二册金一圓(凡て前金を要す)

一史海には我が邦を始め世界各國有名の人物の記傳及び文明史、敎育史、商業史、工藝等を掲載するを主とし又交るに小說にして歷史に裨補あるもの及び論文にして歷史の參照となるべきものを以てす
一有名なる人物亦必らずしも失策なきにあらず之を直書すると其偉人たるに害なし而して後人愛慕の情は却て此等の事情を知るに因りて生ず然るに從來の紀傳は偉人を典型の中に入れ其失策を削り其成功を補ひ之を完全無欠の人となして而して世人をして其傳を聞くを厭はしむ我史海は此弊を矯めんと欲するの意を存す故に善人と呼ばるゝもの、失策を探り出し惡人と呼ばるゝもの、善事を拾ひ集め務めて公平を旨とし古來各國の偉人をして天眞爛漫の有樣にて紙上に顯はれ出で其長技を演ぜしむるとを勉むべし
一木石銅像、寫眞、圖畫等の今日に存在し其風采若くは其時勢を想見し得べきものは精巧なる木版、石版、電氣版等を用ひて之を附載す

第一卷　目次
◎武內宿禰肖像
◎ソクラテス(希臘の哲人)附肖像
◎マーク、アントニー(羅馬の勇將)
◎ボルテール(佛國の文章家)附肖像
◎日本露國交通事畧

右は本月廿五日を以て發刊す請ふ大方の諸彥購讀あらんとを
五月

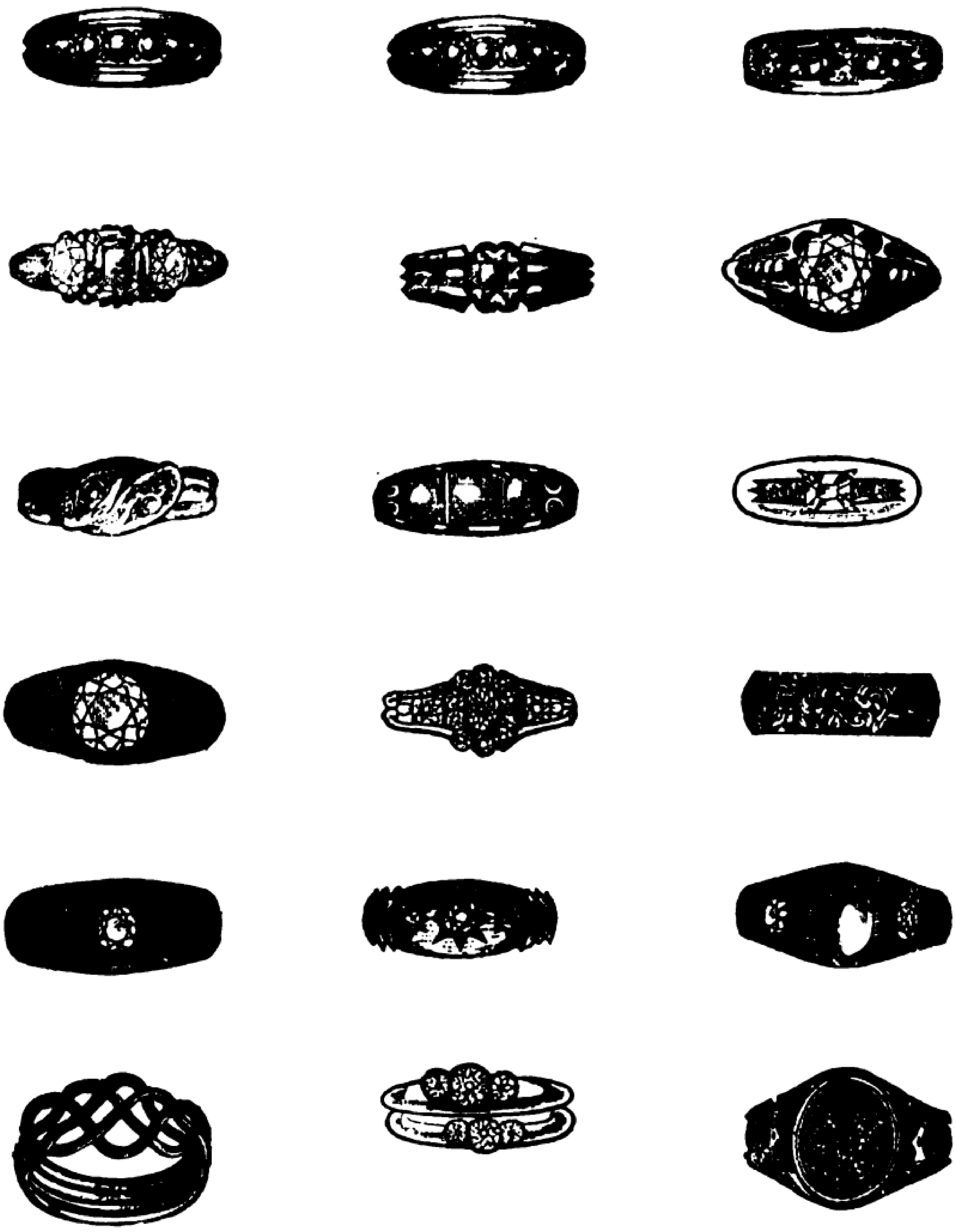
東京市京橋區彌左衛門町七番地
經濟雜誌社

發行所
東京市麴町區下六番町六番地
女學雜誌社
編輯兼發行人　巖本善治
印刷人　堀口庄三

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

天賞堂發賣品第三 指輪ノ部

ダイアモンド、サッフイヤ、リユビー、エメラルド、ヲパル各寶石入及見留印付(篆刻應需)各種



●此他貴金屬細工物隨御好調進仕候也

東京京橋區尾張町二丁目十八番地
電話番號三百三十三番

天賞堂